

令和8年度 長浜市健康づくり推進協議会 要点録

日 時：令和8年9月3日（木）13：30～15：00

場 所：ながはまウェルセンター 2階会議室

【出席者】

一般社団法人湖北医師会	西村 正孝	会長
一般社団法人湖北歯科医師会	澤 秀樹	副会長
市立長浜病院	草野 美樹	患者総合センター副センター長
滋賀県湖北健康福祉事務所	川上 寿一	所長 ◎
長浜市小中学校教育研究会養護教諭部会	小野 江身子	養護教諭
社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会	大橋 知子	介護事業部 部長
特定非営利活動法人健康づくり0次クラブ	宮川 照代	理事
長浜市健康推進員協議会	清水 みよ	会長

* ◎：オンラインでの参加

【欠席者】

長浜赤十字病院	楠井 隆	院長
長浜市立湖北病院	馬場 直哉	看護科長
長浜市民生委員児童委員協議会	吉田 隆浩	木之本地区会長
一般社団法人 湖北薬剤師会	大森 徹也	監事
長浜市連合自治会	林 章浩	神照連合会長

【事務局】

健康医療政策課：前田課長、福永副参事、内藤副参事
健康推進課：松山課長、勅使河原副参事、中村主幹、大島主幹

【傍聴者】

0名

【要点録】

1. 開会（挨拶：健康医療政策課長）
2. 委員紹介
3. 長浜市健康づくり推進協議会について

- ・委員出席者の確認（委員8名/13名 出席）
規則第6条第3項により、過半数の出席があるため会議として成立

4. 会長選出

5. 報告

（1）心の健康専門部会について

自殺対策計画の進捗や課題について協議。資料1-1、資料1-2

【令和7年度の開催結果】

委員より「児童生徒の小さな変化に気づき、見守る必要がある」「病院だけでは対応しきれないため地域の関係機関との連携が必要」「民生委員の改選時期に合わせてゲートキーパー研修を開催してはどうか」などの意見があり、令和8年度に民生委員を対象としたゲートキーパー養成研修を開催することになった。

【令和8年度の開催結果】

長浜市の自殺死亡率は令和7年度時点で、14.2と、全国・滋賀県より低いものの横ばい傾向。全国・市内ともに若年層や就労者（40～50代の有職男性）の自殺・未遂が課題。

市民生委員児童委員を対象としたゲートキーパー研修で257名を養成。

就労者対策として、社会福祉協議会職員を対象としたメンタルヘルス研修を実施予定。今後は「ゲートキーパー年間300人の養成（中間目標：4,500人）」「児童生徒のSOSの出し方に関する教育の推進」「就労者へのメンタルヘルス対策」に力を入れていく。

意見・質疑等

委員：専門部会に参加し、様々な問題を痛感している。社会福祉協議会の職員も相談業務や介護・看護などで様々なストレスを抱えており、非常勤を含め約400人いる職員を対象としたメンタルヘルス研修をお願いし、9月に実施予定。一般企業等への取り組みの啓発も考えていけると良い。

委員：未成年から成人（就職等）への移行期における精神的フォローはどうなっているか。

事務局：大学等へ進学する際は相談先を紹介するなど繋ぎを行っている。就職後について

は、家族への相談を提案するなど、できる限りの支援を行っている。

委員：企業によっては相談があった際に、休業などをすすめることもあるが、果たしてそれが正しいのか、それだけで解決するのかと感ずることがある。

できれば企業向けのフォローも必要だと感ずている。

企業でのストレスで眠れないという相談も多く、医療機関や企業側の対応について更なる指導や配慮が必要と感ずる。

委員：精神科に通院される方は、学校のいじめが原因なのか、その他の原因があるのか。

事務局：若年層の相談もあるが、成人の相談も多く、仕事の多忙など様々な要因が関係している。

6. 議事

(1) 第5期健康ながはま21の進捗状況およびワーキングの報告

事務局より説明、資料2、資料3、資料4-1、資料4-2

・第4期健康ながはま21の実施状況について

多くの項目で実施できているが、身体活動・運動分野や喫煙・飲酒分野の一部において、「地域や商工業界など幅広い連携をした取組」にやや課題（評価BやC）があった。個別相談は対応できているが、集団での啓発に難しい部分がある。今年度は各課が連携の準備を進めており、実施見込みである。

各指標の推移について、身体活動・運動分野（活動量の増加、運動習慣の確率など）で悪化が見られ、運動不足の解消が難しい状況。また、子どもの保護者の喫煙増加なども見られる。

特定健診の受診率は暫定値で42.9%と改善しているが、メタボリックシンドローム該当者・予備軍ともに悪化傾向にあり、肥満や運動不足が心配される。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の年齢調整死亡率は長浜で高めだが、死亡率が少ないため年間数人の増減で数値が大きく左右される傾向がある。

・身体活動・運動ワーキングの報告

全世代に運動の楽しさを継続してもらうため、ロゴマークを作成した。今後は

市役所内の関連資料や周知に活用し、誰でもできるスポーツ大会の検討も進める。

・食育・栄養分野ワーキングの報告

減塩・野菜摂取不足の改善に向け、「減らしNa(な)(塩分)さい!・増やし菜(な)(野菜)さい!」啓発チラシの配布、公式LINEでのデジタル配信、専用ホームページの開設、長浜アプリを通した食育コラムの配信を行った。

今後は健康ながはま 21 中間評価のため、壮年期・子育て世代を意識したアンケートを実施予定。

意見・質疑等

委員：小学生の運動量の定義は何なのか。

暑さによる外遊びの制限（熱中症予防）や熊出没等の影響がある中で、学校現場での運動量確保との兼ね合いをどう考えているか。

いつしたら良いのか等、時期を絡めた啓発も大切ではないか。

事務局：学校では競技スポーツの時間だけでなく、休み時間の外遊びや長縄跳びなど体を動かす工夫や、冬場に向けた「なわとび時間」等で目標を持って取り組んでいると聞いている。暑さ対策で外に出られない課題については環境に応じた対応をされている。

委員：地域では、減塩（お味噌汁の減塩など）や「ベジチェック（野菜摂取量測定）」に取り組んでいる。ただ、健診を受けても生活習慣病の数値が高くなるなど、実際に改善にいたるまでの行動変容の促しや情報を浸透させていく難しさを実感している。

委員：COPDは長年のたばこの影響によるもので、長浜エリアは県内で男性の死亡率が比較的高い傾向が続いている。ただ、50年前の水準と比較すると減少傾向にある。数年単位の増減はあるものの、禁煙の働きかけを根強く行う必要がある。また子どもの体力は全国的に低下しており、場所の確保など難しい点もあるが、対策が重要。

委員：医療現場としては、肥満対策も重要であるが、「痩せすぎている人（特に若年層の女性やCOPD患者など）」への対策も必要であると感じている。

痩せすぎている方の健康状態・骨粗しょう症のリスクに対するケアや注意喚起も、今後の健康づくりにおいてすすめてもらいたい。

(2) 協働による健康づくりについて

事務局より説明、資料5

健康ながはま21では、行政だけでなく各種地域団体や企業との連携による健康づくりを推進している。今年度は、イオンディテールとの連携協定締結や明治国際医療大学との連携による養生による健康づくりパンフレット「ととのう、ながはま」の作成などを行った。また、ウォーキングイベント（イオン長浜店での店内ウォーキング等）や、血圧スポットの設置（35カ所から55カ所へ拡大）、地域づくり協議会における「健康マージャン」講習会の参加など、企業と地域団体の連携も広がっている。

意見・質疑等

委員：長浜病院のヘルスケアセンターでも健診受診啓発や企業へのアプローチ、産業医との連携を行っている。がんの早期発見や、メタボ・痩せすぎ（若い女性のダイエットによる将来の骨粗しょう症リスク等）の啓発が必要。健診で異常があった場合、かかりつけ医や長浜病院診療科へスムーズに繋げる仕組み作りを進めている。

委員：湖北口腔保健フェスティバル（6月開催）について、各団体（薬剤師会、歯科医師会、民生委員、健康推進委員など）の工夫や協力、特に薬剤師会や歯科医師会（口腔内カメラの活用など）のコーナーは大変評判が良く、家族連れ等多くの参加者に効果的に啓発できるため続けていきたい。
11月に行われる健康フェスティバルでも啓発していきたい。

委員：昨年のながはま健康フェスティバル（長浜ドームで開催）も、各種医師会・病院・大学等の協力のもと、一般市民が気軽に測定や相談ができる良い場となった。高齢者から40・50代まで健康意識の高さが伺える。

(3) 第5期健康ながはま21中間評価について

・長浜市健康医療政策課（事務局） 資料6

第5期計画の中間評価を令和9年度に実施する。

計画の分野ごとにワーキンググループを設置して評価・見直しを行い、中間評価報告書を作成する。

・スケジュール（案）

4月：ワーキングメンバー選出、ワーキング開催（現状・取り組み状況確認）

8月頃：中間評価報告書のまとめ

8月末～9月：健康づくり推進協議会への報告・検討

その後：議会等への報告

意見・質疑等

異議なく、了承。

7. 連絡事項・閉会

連絡事項 長浜市健康医療政策課（事務局）

- ・アプリによるウォーキングイベント開催および量販店内のウォーキングコース設置について
- ・9月23日にわくわく健康まつりを開催予定。社会福祉協議会や連携協定締結企業等も参加予定。
- ・11月1日にさざなみタウンにて「健康フェスティバル」を開催予定。

挨拶 健康医療政策課長

以上